

『雨のバスていりゅう所で』

主題名：きまりがある理由
内容項目：C 規則の尊重

教科書 p.40 ~ 43

| 学習活動、主な発問、予想される児童の反応例 | 指導上の留意点、ICT機能の活用例 |
|---|---|
| <p>事例をもとに、きまりが必要かどうかを選択する。</p> <p>○(事例のイラストをもとに) このきまりは必要ですか。 (信号待ち) ・事故に遭ってしまうから必要。 (混んでいる電車(バス)で、間隔を詰める) ・間隔を詰めないと、新しく乗ってくる人の邪魔になるかも。 ・邪魔になるけれど、きまりにするほどのことでもない。</p> | <p>* ICT活用 ①アンケート機能：アンケート機能を用いることで、一人一人のきまりについての価値観を引き出し、その後結果を共有することで、友達との考え方のズレを交流し、教材への関心を高める。 ※目安：選択1分、アンケートをもとに交流4分</p> |
| <p>教材を読んで、話し合う。</p> <p>○よし子さんがしたことはよいと思いますか。悪いと思いますか。また、どうしてそう考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停には誰も並んでなくて、よし子さんが先に並んだのがいいと思う。 ・バス停ではないけど、先に来た人から乗るのがマナーだと思うからだめだと思う。 ・先に来た人が自分の順番を抜かされて嫌な気持ちになると思うからだめだと思う。 | <p>* ICT活用 ②効果音の活用：雨の状況を登場人物の心情に重ねて考えやすくするために、雨音とともに範読する。</p> <p>* ICT活用 ③付箋機能：よし子さんの行動について考えを可視化し共有できるようにするために、付箋機能を活用する(考え方が変われば、新たに付箋を提出する)。 ※目安：色を選択して提出1分</p> <p>*きまりの意義にせまるために、バス停にはよし子さんが一番に並んだことやきまりは明示されていないことから、搖さぶり發問を投げかける。</p> <p>* ICT活用 ④画面一覧機能：多面的・多角的に考えられるようにするために、Yチャートを用いてよし子さんと他の人の考え方の違いを比較し、足りない考えに気づけるように促す。早くできた児童は画面を共有し、各自端末で、友達の考え方を見られるようにしていく。 ※目安：記述5分、閲覧2分</p> |
| <p>○よし子さんが考えていたことと、お母さんやバス待っている人の考えていることは、何が違っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よし子さんは自分のことしか考えていないかったけど、周りの人は他の人たちのことまで考えていた。 ・周囲の人を考える気持ちがよし子さんは足りていなかった。 ・きまりがないからと勝手なことをしていたら、バス停で毎回けんかが起きてしまう。 <p>○きまりが書いてあるほうがまちがいなく過ごせるはずなのに、書いていないのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部きまりを書いていたら大変だから。 ・きまりを書いてもそもそも読まない。 ・書いているかどうかよりも、一人一人がみんなのことを考えることが大切だから。 | <p>*誰もが気持ちよく生活するうえで必要な考えに気づくために、導入での問い合わせなどをもとに、身近な生活から、明示されていない他の事例を問い合わせ、それらを守る意義について考えるよう促す。</p> |
| <p>本時の学習を、自分の生活にどのように生かすか考える。</p> <p>○今日の授業でわかったことやこれから的生活に生かしていくことはなんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりはみんなが気持ちよく過ごすためにでき正在して、みんなのことを考えて行動することがきまりを守ることになる。 | <p>*授業をとおして、自分なりに納得したことや考えたことを整理するために、自分の言葉でノートにまとめるように促す。</p> |

※バス停における並び方については、バス会社などによってルール化されていることもあるので、留意が必要である。

ICT機能の活用

②範読での効果音の利用

雨の音の効果音を流すことによって、雨のときにバスを待っている気分に共感しやすくなる。こうすることで、よし子さんがすぐにバスに乗りたかった気持ちにも共感しやすくなるだろう。本実践では、教師用端末にあらかじめ雨音の効果音を用意し、「雨が降っているときってどんな気持ちになる?」と雨のイメージと構えをつくってから範読を始めた。効果音のせいで範読が聞こえにくくなないように、効果音の大きさには注意する。

③付箋機能

賛否や一人一人の考え方を可視化するために、付箋機能を活用する。ICTを用いることで、考え方が変わったら、自分の手ですぐに意見を変えることができる。本実践ではロイロノートの付箋機能を活用し、よし子さんの行動に対して、「よい」はピンク色、「悪い」は水色、「どちらともいえない」を黄色の付箋で提出するようにした。そして、話し合いの中で意見が変われば、再度付箋を提出し、変わった理由を話し合うことで価値理解や他者理解を促した。

④画面一覧機能

画面一覧機能のあるアプリ(ロイロノート、Google Jamboardなど)を活用すれば、各自が端末に書き込んだ考え方を共有することができる。モニターに提示したり、各自が端末で確認したりすることで、友達の考えにふれ、他者理解を促すことができる。本実践では、さまざまな立場から考えられるように、ロイロノート内のシンキングツール「Yチャート」を用いた(図1)。シンキングツールを用いることで、よし子と母親、また周りの人との考え方の違いが明確になり、比較することをとおして、よし子さんの足りない考え方を気づけるように促す。書く活動は思考が整理され、じっくり考えることができる一方で時間がかかるので、授業全体の時間に留意する。

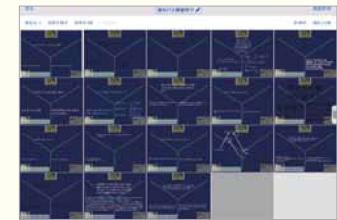
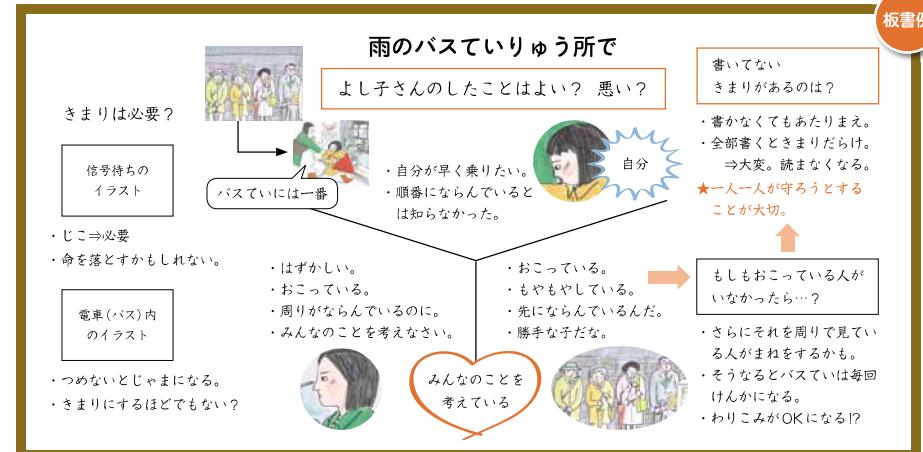


図1 ロイロノートを活用したアンケート

板書例



児童の学習状況(活動)の評価

〔評価の視点〕

①きまりの大切さをさまざまに考え、明示されているかどうかに関わらず、きまりを守ろうとするよさについて、多面的・多角的に考えることができているか。〔授業中の姿や発言、ワークシートの記述、ICT端末での記述〕

②みんなが気持ちよく過ごすために約束やきまりを守って行動しているかどうかについて、自分との関わりで考えることができているか。〔授業中の姿や発言、ワークシートの記述、ICT端末での記述〕